

大会アピール

私たちは、今日この府高教大会に集い、私たちが日々直面している困難さを共有しました。しかし、その中でも今を生きる高校生の成長していく姿を思い、教育に携わる者としての喜びと使命を分かち合うことができました。

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、大阪府では4月25日から6月20日まで3度目の緊急事態宣言が出されました。府立高校では学校単位の休校が相次ぎ、生徒にとってかけがえのない経験となるはずの修学旅行や文化祭・体育祭、部活動などが、大きな制限や延期・中止の決断を迫られました。一方、国の「GIGAスクール構想」の前倒しを受けて「オンライン学習」が叫ばれ、大阪市では、市長トップダウンの指示が現場を大混乱させ、現職校長が厳しい批判の声をあげる事態となりました。背景には、教育産業や人材斡旋業が公教育に儲けのタネを探そうと、虎視眈々とねらっている状況があります。今こそ私たちは「本当に必要な教育とは何なのか」を問い直すべきです。その目的とは「人格の完成」をめざすこと。それは破綻が明らかとなった金儲け至上主義の上には成り立ちません。一人ひとりの子どもたちに寄り添うために、優先すべきは少人数学級の実現であり、「個別最適化」に向けた機械やソフトウェア導入ではありません。

一方、コロナ禍のもとでも、人と人とのつながりを大切にし、工夫を凝らしながら何とか頑張っていこうとする新たな実践も数多く生まれています。私たちは「皆で一緒に教育を良くしたい」という願いを大切にしてきました。昨年度末、養護教諭の複数配置が19校も削減されることに対して、多くの学校で「反対の職場決議」が上がりました。「そもそも職場決議とは何か」「どうやって上げるのか」という議論から始まり、初めてという学校にはノウハウを共有しながら、切実な願いを「要求」として結集することができました。直近のとりくみでは、教員免許更新制の廃止を求める署名が1,000名を超えて大きく広がり、ついに、文科省は廃止の方針を固めました。これからも現場の声を大切にし、皆の願いを当局や政治に届け、よりよい学校教育を作っていきましょう。

国政では、改憲を狙う勢力がパンデミックに乗じて憲法審査会を動かし、国民投票法案を可決させました。その先に、憲法9条そのものを書き換えるねらいがあることは明らかです。「教え子を再び戦場に送らない」の決意に始まった戦後教育の原点を私たちは忘れません。政治の在り方は、教育の在り方、私たちの働き方に直結します。声を上げれば政治は動きます。総選挙直前の今こそ、職場で積極的に議論を行きましょう。そして、一つ一つの対話を組織拡大の契機としましょう。

私たちが行っている教育実践は、常に新しい時代を作っています。子どもの命を守り、豊かな学びを保障していくことをめざして、連帯の輪を大いに広げていきましょう。

以上、決議します。

2021年7月17日 府高教第92回定期大会